

卒業証書授与式を終えて 3/11(金)実施

コロナ禍の感染防止対策として、役割のない在校生は出席することなく、粛々と卒業式が行われました。全校生徒で卒業式の様子を共有したく、当日の式辞などの内容を掲載します。来年度以降、全校生徒で卒業式が行われることを願い読んでいただければと思います。

校長式辞

今年の冬は大雪となり、さらにオミクロン株によるコロナ禍が激しさを増し、逆風に見舞われた冬となりました。しかし、「春の来ない、冬はない」という言葉通り、春らしい「桜の季節」に近づいてきたと感じられる、今日の佳き日、ご来賓のPTA会長八木橋丈夫様、学校運営協議会会長今薫様、並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、ここに令和3年度第75回卒業証書授与式を挙行できますことを心より感謝し、厚く御礼申し上げます。

198名の卒業生の皆さん。卒業おめでとうございます。皆さんとはたった2年のお付き合いでしたが、皆さんが1年生の3学期から始まったこのグローバルパンデミック、新型コロナウイルス感染拡大と今ここにいる我々は共に闘い、耐え、そして、共存もしてきました。この2年間、学校行事や部活動に様々な制限や中止が伴いました。困難がありながらも皆さんは現実をしっかり受け止め、冷静に行動し、できる限りの、精一杯の活躍を見せてくれたことに感謝したいと思います。特設駅伝部の優勝・全国大会出場をはじめとする中体連での活躍、一中祭や合唱コンクールで見た「GENTLEMANSHIP」を発揮した行動、特に合唱コンクールにおける3年生各学級の素晴らしいハーモニーには心が揺り動かされました。その感動と、3年生の底力を見せてくれた光景は、私のかげがえない宝物となりました。

さて、卒業生の皆さん、皆さんがこれから生きていく時代、世界は、様々な希望や不安、あるいは、困難も待ち受けていると思います。今のコロナ禍やウクライナ危機もそうですが、自然災害、人口、食料、環境、平和に関することなど、様々な地球的課題が身近なこととして降りかかってくることも予想されます。また、実社会で生きていくようになると、人間関係や仕事上の悩みなど高い壁に直面することもあります。思うようにいかず何度も失敗することもあり得ます。しかし、失敗しても、転んでも、何度でも立ち上がり挑戦していくことに人間としての価値があるのではないのでしょうか。

アメリカ合衆国第16代大統領エイブラハム・リンカーンは、次のような言葉を残しています。「あなたが転んでしまったことに関心はありません。そこから再び立ち上がることに関心があるのです。」転んでも、倒れても、何度でも立ち上がり勇気を出して挑戦する人生を歩むことを願っています。

また、皆さんの未来はAIが発達する高度情報化時代です。どんな使い方がよいのか、適切に見極めてプログラミングし、コントロールするのは人間です。どんなに時代が変化し、AIが進化しても、人間らしい感性を大切に、豊かな心、優しさや思いやり、など、人間として最も大事なものを持ち続けてください。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。中学校の3年間は、悩みも多く、多感な時期で、心配の種は尽きなかったことと思います。これまでの3年間、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りましたことに、心より深く感謝申し上げます。今後は、地域や社会の中で、自立・貢献・共生していく子どもたちを、見守り、支えてくださるよう、お願い申し上げます。卒業生の皆さん、いよいよお別れの時です。結びにあたって、皆さんが一中で身に付けた「GENTLEMANSHIP」を発揮し、「何度転んでも立ち上がり勇気を出して挑戦する人生」を、歩むことを期待しています。そして、皆さんの夢や希望が古城の桜花(さくらばな)のように開花することを願うとともに、「春の来ない、冬はない。朝の来ない、夜はない。雨の後には虹が出る。」このような時代、世界がやってくることをお祈りし、式辞とします。

在校生送辞 田中 太朗 2年3組

例年ない大雪も、このところの暖かさで徐々に解け、ようやく春の訪れを感じられるようになったこの佳き日、晴れて卒業証書を手にされる先輩方、ご卒業おめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。

今、卒業証書を手にしたみなさんは、次のステージへと旅立つ嬉しさと、一中での生活が終わってしまう寂しさが、入り混じっていることなのでしょう。長いようで短かったこの3年間を思い出すと、こみ上げるものがあると思います。

思えば、僕たちが入学したばかりの2年前、初めての部活動や委員会では、先輩方がいるだけで安心感があり、心強かったことをよく覚えています。そこにいるという存在感だけで人を安心させられる魅力が、先輩方にはありました。僕たちが今すぐ先輩方のようになるのは難しいですが、少しずつでも近づけるよう、努力していきたいです。

部活動では技術面はもちろん、挨拶などの礼儀面でも、先輩方は僕たちの手本になってくださいました。今の僕たちがあるのは先輩方のおかげです。みなさんから教わったことを後輩たちにしっかり伝えていこうと思います。

特に先輩方との思い出で忘れられないのが合唱コンクールです。昨年度の経験がない僕たちにとって、クラスメートと協力して音を作り上げるのは、とても不安でした。市民会館のステージ上で、先輩方が最上級生として、圧倒的な合唱を聞かせてくださったことが、今でも昨日のように思い出されます。ピアノ伴奏をしていた僕個人としても、3年生の伴奏者の演奏を聞いて、来年は自分もあんな演奏がしたい、少しでも近づきたいと思いました。今年度の合唱コンクールが大成功したのは皆さんの力があってこそ。そう思わせてくださいました。

みなさんはいつでも先頭に立ち、僕たちを引っ張ってくださいました。そして一中に対する愛を、示してくださいました。そんなみなさんの存在は本当に大きく、これからは僕たちが代わりを務めることに不安がないと言ったら嘘になります。しかし、みなさんがつないでくださった伝統を、僕たちもまたつながないといけません。在校生が大好きだと思える、そして卒業するみなさんにも誇りに思ってもらえるような一中を守り続けることを約束します。先輩方は心おきなく、それぞれが思い描く未来へ飛び出してください。

先輩方の更なるご活躍を、在校生一同お祈りし、お別れの言葉といたします。

卒業生のみなさん、今まで本当にありがとうございました。

卒業生答辞 仲田 誇我 3年3組

長かった冬も終わりに近づき、校庭の桜も蕾を膨らませています。もうじき去年と同じように美しい花を咲かせることでしょう。でも、その時そこに私たちはいない。そんな一抹の寂しさと、新しい生活への希望を胸に、私たち198名は卒業の日を迎えました。

令和の幕開けと時を同じくしてスタートした私たちの中学校生活。部活動や行事に全身全霊で臨む先輩たちに憧れ、わくわくしながら新しいことに取り組みました。秋晴れの下、班のみんなで市内を探索し、歴史や文化に触れた郷土学習。今にして思えば、コロナの制限もなく、みんなでのびのびと過ごすことのできた貴重な時間でした。しかし、それからは自粛や中止になる行事が増え、これまで通りの学校生活が送れなくなりました。部活動では、限られた条件の中で工夫して練習に取り組まざるを得ず、初めはとても戸惑いました。でも、どうしたらよいかを部員みんなで考え、目標達成のために協力して活動することができたように思います。部員全員で最後までやり切れたことが私の誇りです。一中祭も、規模は縮小されましたが、準備してきたものを全て出し切ることができました。夏休み明けの、一中祭に向かうウキウキした感覚や、限られた時間の中でギリギリまで準備に追われる感じが今、懐かしく思い出されます。あの時も生徒会や学級のメンバーと必死になって取り組みました。一中祭を終えた後に感じた「達成感」が今も忘れられません。3年生みんなで最後の一中祭を開催できて本当によかったと心から思います。

そして、クラスのみんで行った青森への小旅行。思い描いた修学旅行とは違ったけれど、みんなで行けばどこだってよかったのかもしれない。仲間と一緒にだというだけで、何もかもが得がたく、思い出深い体験となりました。その後の合唱コンクールも、思いを込めて全力で取り組むことができ、クラスの枠を越えて、健闘を讃え合うことができました。このように、コロナ禍で開催が難しい行事が多かったにも関わらず、節目となる大きな行事を滞りなく経験させてくださった先生方に本当に感謝しております。

そして何より、これらの行事を含め、充実した学校生活を送れたのは仲間の存在があったからこそです。私はこの一中でかけがえのない宝を得ました。クラスごとに団結しながらも学年全体で楽しみ、健闘を讃え合える、そこがこの学年の良さだと私は思っています。みんなが一生懸命になれる、そして、互いの頑張りを認め合える、これが一中生の良さだと思うのです。だから私は一中が大好きです。今、後輩のみなさんは、一中の良さをしっかりと引き継ぎ、さらに発展させようと頑張ってくれています。後輩のみなさんも、私と同じように一中が大好きだ、と思いながら学校生活を送ってほしいと心から願っています。

先生方、3年間、どんなときも私たちと本気で向き合い、成長を見守ってください、本当にありがとうございました。そして、いつも一番の良き理解者として支え続けてくれた家族。無事に義務教育の過程を修了できるのも家族の支えがあったからです。今までありがとう。そして、これからもよろしくお願いします。

3年間を通して、「今」を思いっきり生きることの大切さを学びました。だからこそ「いつもと変わらない一日」が宝物だと実感しています。私たち一人ひとは、これから始まる新しい生活においても、目の前のことに一生懸命に向かっていきたいと思えます。

最後に大好きな一中のますますのご発展をお祈りし、答辞といたします。